

Vol. **5**

福祉たすけあい基金BOOK

7期の助成団体紹介

～福祉たすけあい基金 7期は「スタート助成」～



公益財団法人

かながわ

生き活き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は	3
福祉たすけあい基金とは	4
市民活動の立ち上げを応援する「福祉たすけあいスタート助成」	5
NPO 法人 いーぷらす	6
湘南地域デザイン	7
本もく座	8
子ども応援丸	9
ひきこもり当事者グループ「ひき桜」	10
NPO 法人 フォーラム・アソシエ	11
スタイルきっず	12
交流スペース「ほっと舎」運営委員会	13
ワーカーズ・コレクティブ mon ami	14
親と子の寺子屋ふれあい自遊塾	15
ご寄付のお願い	16



公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971年創立）は、90年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は2003年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の10年間の助成活動の実践を経て、2013年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

<投資して利潤を稼ぐことが経済>という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくのお金などの社会資源を抛出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、意思ある生活クラブ組合員1万1千人の月100円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラム（2015年助成の「子どもいきいき助成」）は寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものといってよく、福祉たすけあい基金では高齢者・子ども・女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

福祉たすけあい基金の特徴 ～1万人に支持される基金～

98%以上に当たる寄付が生活クラブ組合員1万1千人の毎月100円の寄付で寄せられています。このことは福祉たすけあい基金の強みであり、弱みであると言えます。顔の見えるおおぜいの支持者をさらに拡げつつ、ミッションを伝え地域の寄付者を拡げていかなければならないと考えています。

福祉たすけあい基金にはこれまで143団体から約8,100万円の申請があり、68団体へ2,307万6,682円を助成しました。

1期～7期の実績（5期・7期はスタート助成）

1期	助成2014年4月	申請34団体 約2400万円	助成9団体 451万4100円
2期	助成2015年2月	申請17団体 約700万円	助成12団体 394万4950円
3期	助成2015年5月	申請34団体 約2400万円	助成11団体 382万2000円
4期	助成2015年8月	申請20団体 約1000万円	助成13団体 338万9000円
5期	助成2016年3月	申請12団体 約390万円	助成6団体 166万7633円
6期	助成2016年8月	申請11団体 約640万円	助成7団体 324万5769円
7期	助成2017年4月	申請15団体 約490万円	助成10団体 249万3230円

申請事業活動の特徴

第1期から第7期までの計68団体へ助成を行ってきた中で、子ども・若者の貧困に関する活動を行っている団体が目立ちました。実際に、今回（第7期）のスタート助成でも、10団体のうち8団体が「子ども食堂、居場所、子ども保育、寺子屋、学習支援等」の子ども・若者に関する活動を行っており、他の2団体も子育て応援講座、B型支援による障がい者支援の活動を行い、子ども・若者への間接的な活動を行っています。また、可視化が難しい、子ども・若者の貧困に対して直接活動を行うフードバンクの申請も増えてきています。

市民活動の先駆性・有効性・参加性・持続性、 そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性ととともに、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出しあい、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員（敬称略）

委員長 小山紳一郎	明治大学大学院兼任講師
田中 夏子	研究者（前）都留文科大学 教授
米田佐知子	子どもの未来サポートオフィス 代表
奥山千鶴子	（特非）びーのびーの 理事長
高城 芳之	横浜市指定NPO法人アクションポート横浜 事務局長
瀬下 章子	女性 市民コミュニティバンク 副理事長
城田 喜子	生活クラブ生協 副理事長
小林 洋子	さがみ生活クラブ生協 理事



市民活動の立ち上げを応援する「福祉たすけあいスタート助成」

市民活動の立ち上げを支援したい

福祉たすけあい基金には様々な市民活動団体から申請があり、その中で小規模ながらも地域の中で意志ある市民が集い活動するアソシエーション等からの申請も多々あります。地域では多様化するニーズを捉え、地域に根差した必然性のある活動が行われていますが、活動を持続させるための資金、人材、情報など運営基盤が脆弱で、立ち上げ初期での厳しい運営状況にある団体も垣間見られます。今後、市民が主体となって、多様性を受け入れる共生社会をめざすためには、意思ある市民が市民社会の課題を解決する活動を資金面や運営面のアドバイスなどで応援していく仕組みが必要です。

※ここでいうアソシエーション活動とは、意思ある市民が自主的につどい、行っている比較的小さな活動のことを言っています。



	福祉たすけあい基金 (通常型)	福祉たすけあい基金スタート助成
助成総額	400万円	400万円、2017年度は500万円
1件当たり上限	100万円	40万円
活動回数の制限	無 (同じ事業では複数回助成しない)	最長3回まで同じ事業で申請可能
活動年数の制限	無	初回申請時団体設立後3年以内
事業規模の制限	無	初回申請時直近の事業収入300万円未満

「福祉たすけあい基金スタート助成」の特徴

福祉たすけあい基金は年2回助成を行っており、その内、年度末に行う助成1回を、アソシエーション等の活動の立ち上げや、活動自立するまでの期間を応援する助成として2016年3月に初めて助成を行いました。

スタート助成は、比較的小さなアソシエーション団体の活動の立ち上げや活動初期の基盤づくりを応援する助成で、申請条件として、団体の活動年数を3年未満とし、事業規模は直近の年間収入が300万円未満の団体としています。また、立ち上げ支援のための助成プログラムであり、継続して、3年間助成を受けることが出来ます。(ただし年度ごとに助成申請していただき選考を行います。)

2015年度第1期福祉たすけあいスタート助成団体

	名称	活動地域	事業内容	助成金額
第1期スタート助成	NPO法人 フォーラムアソシエ	横浜市 港北区	食と農及び生活文化に関する教育事業 における「オルタ館食堂」スキーム	170,000円
	交流スペース「ほっと舎」 運営委員会	藤沢市	藤沢地域の縁側（交流スペース）事業 「ほっと舎」の運営	390,000円
	ワーカーズ・コレクティブ mon ami	横浜市 港北区	一時預かり「きっずわっと」の運営	308,400円
	スタイルきっず	横浜市 瀬谷区	核家族化で身近に頼れる存在がなく、不安を抱え ながら育児をしている子育て中の皆が気軽に交流 できる場（スタイルきっず）の提供	200,000円
	ほんそん子ども食堂 「いただきます」実行委員会	茅ヶ崎市	ほんそん子ども食堂「いただきます」の運営	200,000円
	親と子の寺子屋 ふれあい自遊塾	平塚市	親と子の寺子屋・ふれあい自遊塾の活動・運営	399,233円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

障害者の働く場所が、地域の中で開かれた市民の憩いの場になることを目的とし、ドッグカフェ、もの作り、お弁当販売、及び配達を行っています。

取り組んでいる活動の思い

神奈川で初めて障がいの方が働いている「ドッグカフェ」を運営しています。障がいの方がフロアやキッチンのお仕事にやりがいを持って働いています。手作りの犬のおやつや商品の販売、もの作りとしてデザイン画から商品開発するなどそれぞれの力を色々な形で表現する場でもあります。

地域の方の手作りの品をお預かりして「トレジャーボックス」で販売しています。お店は物を販売するだけでなく、当たり前障がい者と地域の方々の交流する場として活動の輪が広がっています。

またお弁当販売については、近隣の配達他に、金沢区役所での販売も開始しており、ますます活動の場とふれあいの場が広がっています。

活動歴

2016年8月1日、横浜市金沢区にドッグカフェ&もの作り「のあのあ」を開所

団体情報

住所 〒236-0045

横浜市金沢区釜利谷南2-30-14

TEL/FAX 045-568-8625

Mail e-plus@kb4.so-net.ne.jp

ドッグカフェののあ

住所 〒236-0042

横浜市金沢区釜利谷東6-1-23

TEL/FAX 045-512-6407

URL <http://www.002.upp.so-net.ne.jp/e-plus-noahnoah/>

助成した事業・活動

就労継続支援B型（ドッグカフェ・ものづくり）の運営

内容

通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者に就労の機会を提供するとともに生産活動を通じてその知識及び能力向上のための訓練を行う

助成対象

事業拡大のための冷凍庫、フード乾燥機等設備費を助成

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

今回の取り組みは、障がいの方々の工賃アップの為の事業拡大と地域の方々のコミュニティ作りを目的としています。のあのが益々地域の方の憩いの場となることを、目指しています。



もの作り：毛糸、フェルトを使ったもの作りの様子です。



もの作り：出来上がった商品です。

犬のおやつ作り：サツマイモを食品乾燥機にかけ、犬のおやつ作りを行っている様子です。



お弁当作り：厨房で利用者さんに手伝ってもらってお弁当を作っている様子です。



犬のおやつ作り：出来上がった犬のおやつ（サツマイモ）



お弁当：利用者が作った箸入れ、手拭を添えて、スタッフと一緒に配達しています。

湘南地域デザイン

代表 原田 建 藤沢市内

助成金額
112,230円

団体紹介

設立年月

2016年3月

団体の目的・活動内容

- ・主に小学生を対象とする学習室&居場所を週1回提供する。
- ・数人のボランティアが子どもたちの宿題をみたり、一緒に遊んだり、けん玉・紙ヒコーキなどを教えたり、子どもを軸にして異世代の大人も集まるコミュニティの活性化に寄与する。

取り組んでいる活動の思い

- ・子どもの相対的貧困率が6人にひとりという社会状況の中、ひとり親の増加、保護者が子どもと向き合う時間が減り、子どもの食生活や学習環境に格差が生まれている。このような子ども時代の格差は、将来の進学や就職にまで影響を与え、負の連鎖となっていくことに歯止めをかけたい。
- ・また、いまの子どもたちは、放課後に自由に過ごせる居場所が少ない。保護者がいない自宅に友人を招くことを拒む家も多く、高学年になるほど、塾や習い事に行く子が多い。学童クラブは定員オーバーでもある一方、経済的理由で辞めていく子どもも少なくない。
- ・大人に関していえば、今の子どもたちの取り巻く環境に心を傷め、何かしたいと考える方が確実にいることを感じる。
- ・「寺子屋ハウス」という、子どもを中心とする居場所を提供することで、わからないところをそのまましている子どもの学力を補うこと、複数の大人がいることで子どもが安心して身を置けること、子どもが家庭・学校以外の大人との関係を築くこと、ゲーム以外のグループ遊び、異学年の子どもたちと一緒に遊ぶこと、ボランティア同士のつながりを持つことなど、多くの機能を持ち合わせていることに気づかされる。

団体情報

住所 藤沢市朝日町 15-2

TEL 0466 (28) 1515

Mail

fujisawa.terakoyahouse@gmail.com

助成した事業・活動

「寺子屋ハウス」を利用する子どもの困難実態調査のための「お食事会」の開催

内容

親の低収入により、子どもの食や学習環境での格差が広がる中、多様な地域の大人によって子どもが子どもらしくいられる場所づくりを行う。

助成対象

お食事会の為の冷蔵庫、炊飯器等の備品代を助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

春休みに「お食事会」を開催。早速助成金を使い、幾つかの備品を購入し、子ども24人(+大人)分のカレー夕食会が盛況に終わりました。所有の調理器具を持てたことで、スタッフの運搬等の負担は確実に減りました。

「お食事会」は、子供たちにチラシを渡し、参加集約し、夕飯後に保護者に迎えに来てもらうまでの一連の動きで家庭環境を推測できます。申込書を提出する家、お手伝いをしたがる子、家でのカレーは誰が作るか、お迎えに来る家庭、そうでない家庭。普段の居場所だけでは知りえない家庭事情をキャッチできました。



カレー夕食会は、お代りの大合唱!!



大きな手、小さな手、崩してた子が負け



寺子屋ハウスののぼり旗で地域にアピール

大縄跳びは、学年を超えて遊びます。

団体紹介

設立年月

2015年11月

団体の目的・活動内容

地域の学校、幼稚園、地域ケアプラザ、地区センターなどで本読み、紙芝居、手遊び、歌等の活動を行うことにより、地域の明るいまちづくりに貢献する。

取り組んでいる活動の思い

放課後も小学校に残る子どもたちの中の6人に一人は、朝食や夕食を家族と一緒に取れない厳しい環境に置かれています。子どもたちが私たちの活動を通じて、社会に見守られていることを感じ、自分を大切に、自分らしく生きようと思ってくれれば良いと思います。また、地域ケアプラザでは、認知症であっても社会との繋がりを求めている方が大勢いらっしゃいます。わたしたちの活動がわずかでもそのような方たちの生きる希望になればと願っています。

新規に始めた幼稚園の子どもたちには、地域で彼らを見守っている大人がいることを感じてくれれば十分だと思っています。

活動歴

平成28年度は計107回の活動を行い、延べ2,375人の方に聞いてもらいました。

団体情報

Mail : grhonmokuza@gmail.com

担当: 寺島 雅子

助成した事業・活動

ほんの読み聞かせ「本もく座」の運営

内容

横浜市中区本牧地域において本読み等の活動をボランティアで行い、地域の明るいまちづくりに貢献する

助成対象

活動の交通費補助、講師謝金、資料コピー費用等申請金額の半額を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

ボランティアである限り、自分の都合の良い時しか活動できず、活動の継続性をどう保つかが一番の悩みです。でも、「本もく座」では個人ではできないことを、他の会員と協力して行なうことができます。また、勉強会を定期的に行ってレベルの向上を図っています。

本読みボランティア養成講座を開催して、新しい方にも加わって戴きたいと思います。今回戴いた助成金は、そのような活動のために使わせて戴きます。子供たちの笑顔と、お年寄りの真剣ななまざしを心の糧にして、活動を続けます。



ブックフェスタ2016に参画し、本読みボランティア養成講座(全5回)を開催しました。これは30分のプログラムを作り、発表しているところです。



本牧地区センターでは日本の年中行事を紹介しています。これは、お月見おはなし会の様子です。時間は30分、一階ロビーにて誰でも聞くことができます。



大鳥小はまっ子の夏休み特別プログラムです。7月21日から8月25日まで10回、各10分の本読みを行いました。帰りの会で全員が集まったところで本を読み始めるので、50人から100人くらい、平均すると70人くらいの子どもたちと一緒に。

子ども応援丸

代表 津田 眞利 茅ヶ崎市内

助成金額
145,000円

団体紹介

設立年月

2016年4月

団体の目的・活動内容

中学生への学習支援を、学校と連携を取りながら実施しています。学校の集団授業から漏れ出てしまい、意欲を失ってしまった子どもたちに対し、学習支援を通してケアする事により、学ぶ意欲、生きる意欲を取り戻すサポートをしていきたいと思っています。

取り組んでいる活動の思い

現在の活動のきっかけは、昨年の春、現在支援を実施している中学校の校長より、夏休みに学校で実施するサマースクールの学習ボランティアを集めてもらえないかと依頼を受けた事でした。何とか要望の人数を揃え、サマースクールへ派遣し、そこで、何かのきっかけで学校の授業についていけなくなってしまうながら、学校がそうした子どもたちをケアできていない実態を目の当たりにしました。そして、短いサマースクールの間でも、いつも下ばかり向いている子どもたちが前向きに取り組む姿を見て、この学習支援を夏休みだけで終わらせてはいけないと思い、学校と話し合った上、月3～4回程度の定期開催をするに至りました。

活動歴

- 2016/8 茅ヶ崎市内立西浜中学校サマースクールに学習ボランティアを派遣
- 2016/9 西浜中学校内で実施されるテスト前勉強会への学習ボランティア派遣を開始
- 2016/11 南湖公民館での定期学習会を開始
- 2016/3 茅ヶ崎市協働推進事業の採択により、教育委員会との協働による学習支援実施校の選定にはいる

団体情報

住所 〒253-0043 茅ヶ崎市内新栄町
2-30 津田系店内
TEL 070-5571-8815
Mail tsuda1022m@gmail.com

❁ 助成した事業・活動

中学生に対する学習支援事業

❁ 内容

子どもたちへの学習支援事業、こども食堂、居場所作りを行う

❁ 助成対象

事業立ち上げの広報費（HP・パンフレット作成費用）を助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

これまでほぼ無資金で活動を行ってきましたが、事業を継続・拡大していくために、今回このタイミングで助成金を受けられたことを大変うれしく思います。大切にに使わせていただきます。

茅ヶ崎市内立西浜中学校 校長 佐々木 隆一様へ

子ども応援丸 学習会へのお誘い

皆さん、ご進級おめでとうございます。皆さんの新しい1年が実り多い1年となるよう、子ども応援丸の学習会も、これまで以上に皆さんの学習面をしっかりとサポートしていきます。「ちょっとこころ苦しい」「家だと勉強に集中できない」「勉強の仕方がわからない」そう思ったら、ぜひ学習会に来てみて下さい。4月は南湖公民館で4回行います。開催時間が変更になりますのでご注意ください。皆さんの参加をお待ちしています。

日時：4月11日(火)、13日(木)、27日(木)
帰宅後 夜7:00～8:30
場所：南湖公民館
費用：無料
形式：数学と英語の教科で購入した問題集に取り組みます。分からないところは先生がサポートします。国語・社会・理科を希望する場合は別途申し込みが必要です。参加費は無料です。必ず一度帰宅してから来て下さい。安全についてはご家庭で責任を持ち、十分に気を付けてください。

参加を希望する方は下記申込書に「レ」を入れて担任の先生へ提出して下さい。

参加申込書
南湖公民館の学習会への参加を希望します。

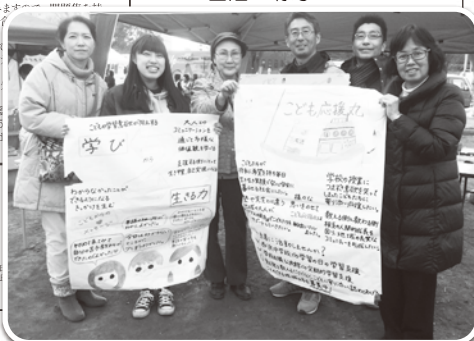
☐ 4月11日(火)
☐ 4月13日(木)
☐ 4月20日(木)
☐ 4月27日(木)

年 組 生徒 保護者
緊急連絡先電話番号もしくはメールアドレス

子ども応援丸
Tel: 070-5571-8815
Mail: tsuda1022m@gmail.com

参加者募集の為に学校からの配布チラシ

サポセンワイワイまつり出店の様子



サマースクール終了後の講師によるミーティングの様子

ひきこもり当事者グループ 「ひき桜」in 横浜

代表 割田 大悟 横浜市

助成金額
390,000 円

団体紹介

設立年月

2015年6月14日

団体の目的・活動内容

神奈川県内に2つしかなかった「ひきこもり当事者団体」を新たに創設するとともに「年齢に関係なく男女ともに参加しやすい、ゆるく気軽に参加できる場所」を開催。現在は女子会を含む居場所事業に加え、新しい取り組みとしてピアサポート普及啓発事業を行う。

取り組んでいる活動の思い

「ひき桜」は珍しい取り組みをしていると言われています。関東の当事者団体の中ではかなり積極的な取り組みを行っており、特にピアサポート学習会は、先駆的な活動となっております。一方居場所で大勢にしているのは「ゆるさ」と「自由度」であり、居場所を通じて「元気に過ごす」ことができればいいのではと考えております。そのため就労や社会訓練の場というよりは、居場所として独立した存在であるというのが大きな特徴です。当事者団体として現在のような活動ができることを嬉しく思っています。それはひきこもり経験を何かに活かすことができている、還元できていることが活動の源となっています。今後もひきこもり当事者団体ならではの先駆的な活動をできればと考えております。

活動歴

2015年7月…第1回居場所開催

2016年度…当事者発による全国初の体系的なピアサポート学習会の開催

2016年6月…居場所で初めて女子会を開催

2017年2月…ひきこもり大学ピアサポートゼミナール活動報告会開催

2017年4月…ピアサポート普及啓発事業の報告書を出版

団体情報

住所 〒227-0054 神奈川県横浜市青葉区しらとり台6-5

TEL 080-6653-8926

Mail hikizakura.yokohama@gmail.com

❀ 助成した事業・活動

ひきこもり当事者主体によるピアサポート学習プログラムのモデル事業。

❀ 内容

先駆的なピアサポート学習会の開催により、ひきこもり当事者が地域でピアサポート活動するための土壌づくりに貢献する。

❀ 支助成対象

学習会実施の会場費、テキスト印刷製本費、研修費、会議費、通信運搬費、講師謝金を助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

今回助成をいただけたことに感謝しております。ピアサポートを学ぶ機会はひきこもり当事者・経験者にとってはいまだに少なく、地域で活躍する土壌が整備されておられません。

今回の取り組みによって、ひきこもり当事者・経験者が一緒にピアサポートについて学び合い、今後アウトリーチや居場所活動など様々な取り組みをするにあたっての基本的な考え方を共有し、ひきこもり状態にある人が社会に参画しやすくなるよう取り組んでいきたいと思っております。



60人規模の部屋を借り、交流・まったり・マットなどで休む人もいる

当事者会としては珍しく卓球ができる。そのほかゲームや女子会もやるなど、とにかく多彩な居場所



昨年度の集大成として「ひきこもり大学ピアサポートゼミナール活動報告会」をおこない、60名が参加されました！ピアサポートの重要性を各視点から報告がありました。

NPO 法人フォーラム・アソシエ

理事長 元木 知子

横浜市港北区

助成金額
194,000円

団体紹介

設立年月

2016年4月1日

団体の目的・活動内容

当法人は、一般市民に対して、生活に根差した「生きる力」を引き出すための体験および対話の場の提供に関する事業を行い、自分で考え自分の意思で行動する次世代の担い手を生み出し、子ども一人一人の笑顔が自分らしく輝く希望と多様性に満ちた社会の実現に寄与することを目的とする。

取り組んでいる活動の思い

核家族化の進行とともに、働く女性が増え、家族であってもバラバラに食事がすることが避けられない社会状況にある。この問題解決を当事者だけに求めるのではなく、地域の人のつながりで解決する道を求めていきたい。

東日本大震災後、「絆」の大切さが再確認されたが、地縁、血縁といった旧来型の強連結は、時に村八分というような息苦しさもはらむ。これからは、むしろ、緩く弱いつながりが地域に重層的にあることが求められるのではないかと。

子どものいる世帯の経済的な貧困が社会課題としてクローズアップされ、地域市民がボランティアで運営するこども食堂が全国に広がっている。私たちにはまだ、経済的な貧困に直接リーチする力量はなく、経済状況に関わらず、現在多くの人が直面している人間関係性、体験、情報の貧困に着目し、食を道具として、地域にナナメの関係を作りたいと考え、「おるた家族食堂」のしくみをつくり、運営している。

活動歴

2016年度の開催回数: 21回

参加人数: のべ314人

2016年7月10日 キックオフフォーラム「食堂のチカラ」開催

団体情報

住所 横浜市港北区新横浜2-8-4
オルタナティブ生活館5階

TEL 045-472-7093

Mail info@f-assosia.com

❀ 助成した事業・活動

食と農および生活文化に関する教育事業の一つとしての、食を中心とした場づくり事業

❀ 内容

孤立化、無縁化が進む地域に対して、一緒に家庭料理を作り、おおぜいで食べる多世代交流の場「おるた家族食堂」を提供する。持続可能な仕組みづくりと運営に取り組む。

❀ 助成対象

事業拡大のための広報費（印刷費・折込費）、フォーラム（会場費、講師謝金）開催、その他備品費を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

開催場所である新横浜の地域特性から、若い勤者や子育て世代（主には母親と子ども）の参加をイメージしてスタートしました。一年間やってみて、父親も一緒に家族で参加する子育て世代が中心になってきています。

遠い親戚の集まりのように、時にはおおぜいでつくって食べる場が新横浜にあることを、地域のみなさんに知っていただくために、フォーラムを開催します。今回の助成金を活用し、参加しやすいワンコイン（500円）の参加費に設定できました。お知らせチラシの印刷など、広報にも使わせていただきます。



お父さんたちの参加が増えてきました。



食後子どもはゲーム、大人はおしゃべり



オルタ家族食堂のクリスマス

皮も餡も手作りの餃子

団体紹介

設立年月

2013年4月1日

団体の目的・活動内容

このサークルは「講師もスタッフも参加者も、同じ目線で共に楽しく子育てを頑張っていこう」という理念のもと活動している。

親子向け講座、子連れで参加できるママ向け講座、交流会を企画・実施している。

取り組んでいる活動の思い

慣れない育児、引っ越し先での生活、身近に頼れる身内がない…など子育て中のママは孤独感を味わいがちである。

「親子が楽しい時間を過ごせる場を作れないか。」そんな思いから始まった子育てサークル。

「子育てという貴重な経験を楽しんでほしい」、「親子が笑顔でいられる場所と時間を、講座や交流会を通して提供していきたい。」

子育て真っ最中の私たちが同じママとして、孤独感を味わうことなく皆が子育てを楽しめる環境作り、心作りの場を作り上げていきたい。

活動歴

専門の講師を招いた「親子でスキンシップ講座」、「ママ輝き講座」年間120回(2016年度)実施。2017年1月22日には、地域との交流もかねた「おやこみゅ☆輝きフェスティバル」も開催。子育てに関するテーマを設けた交流会(おやこみゅ:親子コミュニティ)では、現役ママだからこそわかる今必要とされる情報の共有、提供も行っている。

団体情報

住所 〒246-0023

横浜市瀬谷区(非公開)

TEL 080-6553-0298

Mail music-style@nifty.com

❀ 助成した事業・活動

スタイルきっず子育て応援講座の開催

❀ 内容

核家族で身近に頼れる存在がなく、不安を抱えながら育児をしている子育て中の皆が気軽に交流できる場の提供

❀ 助成対象

講座スタッフ交通費、事務費、携帯予約フォーム使用料、会場費を助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

サークルをたちあげて5年目に入りました。これまでたくさんの親子に各講座・交流会に参加いただきました。参加された皆様の感想を聞く度にこうした活動の必要性、継続性の大切さを感じます。

サークルの運営には理念に賛同してくれたママさんがスタッフとして協力してくれており、それぞれが大きな負担がなく長くサークルと運営していくことが重要だと考えています。

この度助成をいただき、今年度も活動が継続できることをとてもうれしく思います。少しでも多くのママさん、お子さんが笑顔でいられる場を提供できるようにしていきたいです。



「英語/音楽講座」パラバルーンも使用して、音楽や英語の発音にあわせて動かし、親子でふれあうのはもちろん、参加された皆様で一体感をもって講座を楽しみます。

「Baby! touch!!」1歳までの赤ちゃんとお母さんが参加できる親子の愛着形成サポートの為に講座です。抱っここの仕方講義や童謡を歌いながら、赤ちゃんの目の前でママが手を動かし、赤ちゃんの成長に大切な5感を刺激しつつ講座を展開していきます。



「骨盤☆ボディケア」子連れで参加できるママ向けの講座です。ママの笑顔があってこそ育児も楽しくでき、お子様にも笑顔がうまれる!産後うつ予防やママのリフレッシュ/健康保持を目的とした講座です。



交流スペース「ほっと舎」運営委員会

委員長 野副 妙子 藤沢市

助成金額
400,000円

団体紹介

設立年月

2015年6月

団体の目的・活動内容

少子高齢社会を迎える今、住み暮らす家で暮らし続けるために、人が集い語らう福祉の拠点をつくり人のつながりを繋いでいく事を目的とする。

この間実践を通して地域にあって良かったと思っている方が地域に受発信し活動している。

取り組んでいる活動の思い

藤沢市が取り組んでいる地域の縁側事業の粋を越えた活動をめざしています。その事はワーカーズ・コレクティブの23年間の積み重ねた実績の中から地域包括ケアの取り組みへと上げたかったからです。

地域包括ケアの取り組みの目的は「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために」です。ワーカーズ・コレクティブの価値と同じだからです。

この活動は市民の意識の変化(取り組むのは市民)主体的参加(参加して創りだそうとする意欲)が重要です。

利用者は、国や自治体がペーパーで出しているても現実的に理解がむずかしい。

しかし、顔と顔と見える関係が深まると信頼から共に参加、参画とつながる。

地域の皆さまと共に確実に歩を進めていきます。

活動歴

2015年6月に藤沢市の縁側事業を受託し市民とともに地域づくりを進めるための「ほっと舎」運営委員会を設立。毎週木曜日以外の10時～16時に開所。年始、年末も活動を行っている。

団体情報

住所 〒251-0862 藤沢市大庭
5348-16 高橋ビル202
ワーカーズ・コレクティブ「実結」内
TEL/FAX 0466-54-9681
Mail qqvv5pm9k@wish.ocn.ne.jp

助成した事業・活動

藤沢地域の縁側(交流スペース)事業「ほっと舎」の運営

内容

子どもから高齢者、障がいをお持ちの方、子育て中の親などが気軽につとどい高齢者が持つ文化を次世代の子ども達に継承し地域を豊かにしていく場の運営

助成対象

家賃の一部を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

縁側活動するにあたり、地域福祉の拠点が必要です。

人が集い、語らい、そして食べながらの居場所は様々な生活福祉のニーズがキャッチできる。しかし、そこには現在借用している家賃収入としてイベント、学習会、バザー等の収入だけでは厳しい状況でした。そのような学習会などは人が集います。学びが活きた学びとなると人に語られます。そして知らないを知ると自然と語りたくなれるのではないのでしょうか。その事が「ほっと舎」を今まで知らなかった方が知られ地域にあって良かったにつながっていきました。

次の活動をステップアップするためにもこの2年間の実績は必要でした。生き活き基金からの家賃の補助は大変ありがたく、そして助成金を受ける意見はその通りだと評価し取り組むことができました。次なるステップができました。



近くの公園にお弁当を持参し桜見

地域の中学生の生徒さんと利用者の皆様と合唱



お一人おひとりが好きな歌を唄う楽しい音楽会



団体紹介

設立年月

2013年1月23日

団体の目的・活動内容

子育て支援

取り組んでいる活動の思い

「毎日子どもと二人きりで過ごしているとリフレッシュしたいと感じる。子ども同士の触れ合いが少なくこの先の集団生活に不安を感じている。美容院に行きたい、買い物に行きたい。。。などさまざまな理由で子どもを預けたいと思うがいきなり知らないところに預けるとするのは気が引ける。」という声をよく聞きます。親子ひろばを利用しているひとがきっずわっとを利用してくれるのは「ここなら子どもも大丈夫かもしれない」と思ってくれているからだと思っています。近隣の一時保育とは価格が高く時間も短いのですが、利用者へのケアについては保護者の立場になって考えたり子どもがどんなことに興味を持つのかなどをスタッフ間で話し合い、次回の預かりに向けた活動をしています。世の中とても機能的でピンポイントに必要なことを選ぶことが多いですが、その間にある大切な気持ちや感覚などを大切にしていきたいと思っています。

活動歴

2013年

親子ひろば「わっとほーむ」開所

2015年

預かり専門「きっずわっと」開所

団体情報

住所 横浜市港北区新横浜 2-8-4

オルタナティブ生活館4階

TEL 080-6779-9092

Mail wthome0913@ezweb.ne.jp

ひろばの開催情報

未就園児(0～4歳)が対象

毎週月・水・木 10:00～13:00開所

ランチタイムは12:00～13:00

ひろば時間内の一時預かり有

❀ 助成した事業・活動

一時預かり「きっずわっと」の運営

❀ 内容

自分の時間をもちたいと感じている親、近所付き合いが薄く子ども同士の触れ合いが少ないため子どもの社会生活に不安を感じている親のための一時預かり事業

❀ 助成対象

事業拡大のための広報費(印刷費・イベント講師謝金等)

人件費の一部を助成

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

在宅保育をしている人たちへの支援として立ち上げた一時預かりにご理解をいただきありがとうございます。最近はお互いが働かなければならない家族が多く、保育園の必要性がうたわれていますが、在宅保育をしている方々への支援も必要であることは親子ひろばで活動して感じるところです。

今年度は広報に力を入れ、新横浜でがんばって子育てをしている親子が一緒でも多く「きっずわっと」を利用し、子育てに対する自信やわが子への新しい気付きなどを提供していきたいと思っています。



外遊び

散歩中にダンゴムシに遭遇!触ってみたらコロコロと丸まってしまいました。最初はダンゴムシに触れなかったけど最後は丸まったダンゴムシをつかんで手のひらに置き、復活しては触って丸めていました(笑)ダンゴムシ遊んでくれてありがとう!



年賀状作り

野菜でスタンプを作り、おじいちゃんおばあちゃんへ年賀状を作りました。普段手が汚れるのを嫌がる子どももスタンプなら何とか押せます。おじいちゃんおばあちゃんが喜んでくれたって言ってもらえました。



お月見だんご作り

白は米粉 黄色は米粉にかぼちゃを練り入れました。練って丸めてゆでる という3段階ですが練ったところで飽きてしまい、丸めるころは2、3回くるくるただで成型はスタッフでした(笑)。

親と子の寺子屋ふれあい自遊塾

理事長 加藤 啓子 平塚市

助成金額
300,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

近年、子どもの問題が多発深刻化している。その予防と回復のためには、安心して人とかわりあう遊びの体験が重要という理念に基づき、親、仲間と遊ぶ機会を心理教育的プログラムとして提供する。

取り組んでいる活動の思い

参加する子どもたちは、毎回新鮮で心の物語を紡いでいます。

電子ゲーム普及の反動でしょうか。人とかかわりあう遊びとしてカードゲーム、ボードゲームが最近静かなブームになっているようです。協調、忍耐、社会性が身につくと、授業や放課後に活用している小学校が新聞で紹介されました。

また幼少時、人とかかわりあう機会の多かった人ほど結婚願望が高いという調査結果があります。今に限らず少子化対策として将来にも影響を及ぼす活動と認識しています。

しかしながら、自己肯定感、問題解決能力、コミュニケーション力を高める重要さに理解を示しつつも、我が子を心配する親心は、習い事など能力優先となり、遊びは2の次になってしまうという現実もあります。

啓発の意味を含めた広報活動が、今後の大きな課題です。

活動歴

2014年公民館家庭教育学級から始まった活動は、3つの特色あるワークショップとして各々月1回開催。1年間で130組350名が参加。他に地域イベント、保育園に出向き多くの親子がかかわりあう楽しさを体験しました。今年度からエコロ口座に登録しています。

団体情報

住所 平塚市（非公開）

TEL 0463-33-6198

Mail jiyuyuku@chic.ocn.ne.jp

URL <http://jiyuyuku.main.jp/main/>

❁ 助成した事業・活動

親と子の寺子屋・ふれあい自遊塾の活動・運営

❁ 内容

臨床心理士の経験をもとに、現在の社会において欠けがちな、子ども達が人と触れ合う体験をワークショップやゲームに取り入れ、人と触れ合う体験を創出・提供する。

❁ 助成対象

申請事業全体にかかる事業費のおおよそ1/2を助成（広報費・事務費・交通通信費・人件費）

助成をうけて…の思い・メッセージ

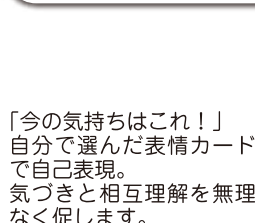
昨年に続き助成をいただき心から感謝しております。

おかげさまで今年度も安心して活動できます。

「子どもの笑顔が見たい、私も笑顔でいたい」「自遊塾のママはニコニコしているから好き」という言葉の背景にある深い想いに少しでも寄り添うことが活動の趣旨につながると考えます。どのお子さんにも体験してほしいと願っています。真摯に活動を続けてまいります。有難うございます。



「どうしたら上手くできるかな？」
協力しあって問題解決、子どもたちが好きな集団遊びです。



「今の気持ちはこれ！」
自分で選んだ表情カードで自己表現。
気づきと相互理解を無理なく促します。



ひらつか西海岸デポー
カフェでの風景。出入り自由なので、買い物
がてら気軽に参加。
店内に笑い声が響きます。



志ある寄付をお願いします

かながわ生き生き市民基金は2017年度市民の活動と連携した
「志ある資金循環」をテーマとして活動しています。

かながわ生き生き市民基金の助成プログラム「福祉たすけあい基金」の活動をご支援ください。
「福祉たすけあい基金」は、地域の福祉たすけあいにかかわる活動を支援するために、志金の寄付
募集を行っています。

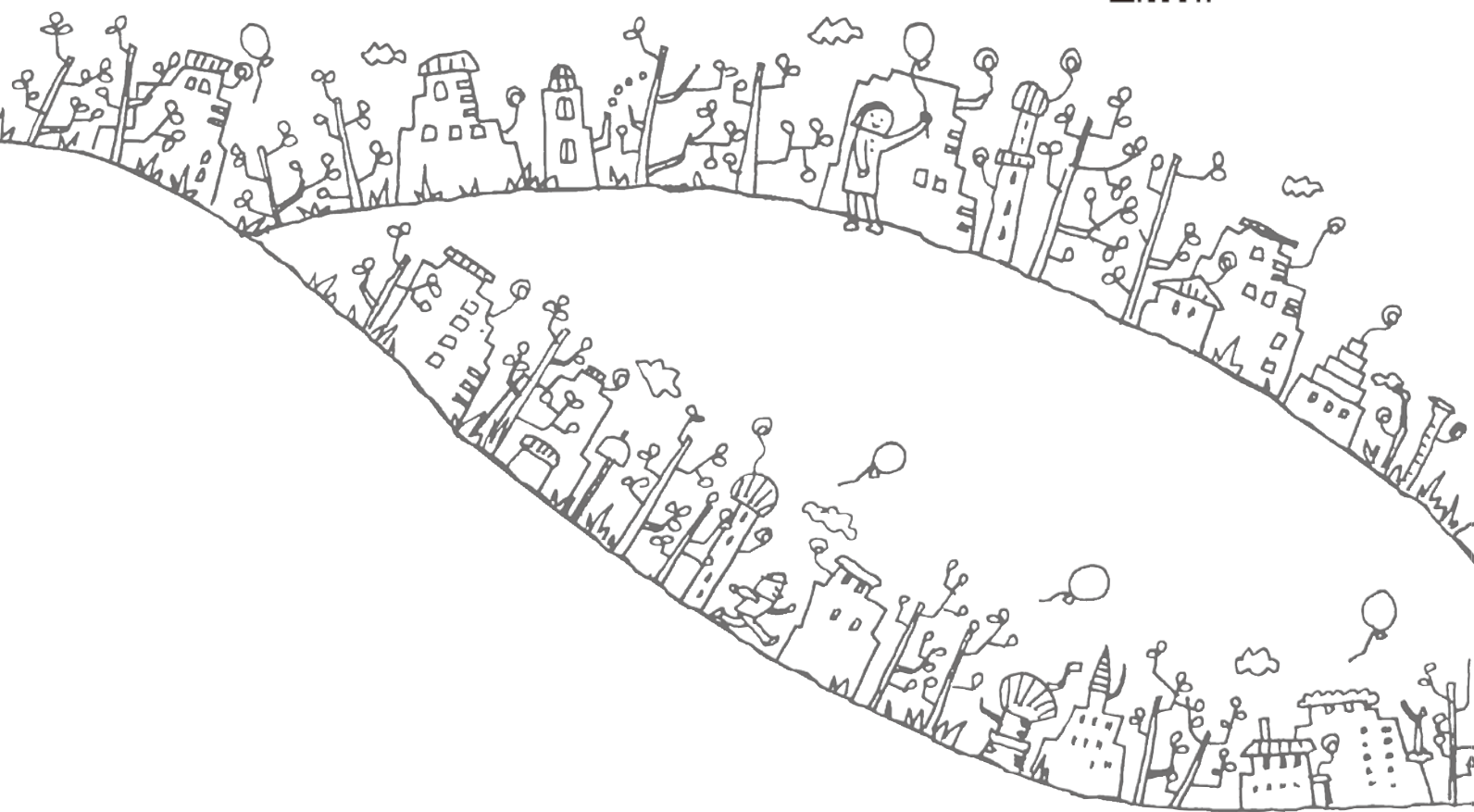
月100円1年間1,200円を3月にご意志を確認したうえで引き落としさせていただきます。引き落
としの金融機関はどちらでも可能です。停止される場合は、毎年の確認時にお申し出ください。

基金事務局までご連絡いただければ、詳細をご説明させていただきます。

生活クラブ生協の組合員の皆さんは、寄付登録されると、共同購入代金と併せて毎月100円を自
動引き落としさせていただくことが可能です。

税制優遇に活用する領収書を発行します。

スマホからQRコードで財団ホーム
ページにリンクできます。



公益財団法人 **かながわ生き生き市民基金**
Kanagawa Lively Citizens Fund

発行：公益財団法人 **かながわ生き生き市民基金**

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日／2017年5月